

 <p>学力特集号</p> <h1 style="font-size: 2em;">日明小だより</h1>	<p>北九州市立日明小学校 文責 校長 阿多博孝</p>
--	----------------------------------

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

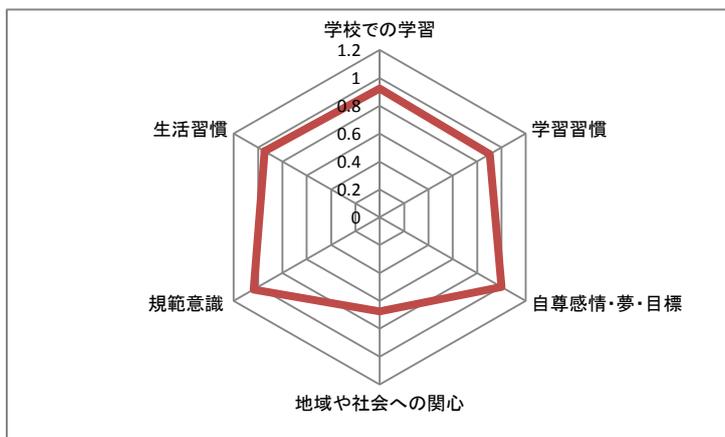
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全国・本市と比較すると、平均正答率が低い。「話す・聞く」「読む」「知識・理解」に誤答が多く見られます。 問題文を的確に読む、自分の考えを最後まできちんと話すなど手だてが必要です。	下回っている
国語B	全国・本市と比較すると、平均正答率が低く、多くの領域で誤答が多く見られます。 しっかりと問題文を読み、問題の意味を理解し考える力を身に付ける手だてが必要です。	下回っている
算数A	正答数が4問と10問の児童数が同程度おり、2極化が見られるため、個別に支援を行う必要があります。 「数と計算」の知識・理解に関する問題への誤答が多く、課題が見られます。	下回っている
算数B	正答数が1・2問と6～8問に児童が集中しており、2極化が認められ個別に支援をする必要があります。 領域では「数量関係」の技能に関する問題に誤答が多く、課題が見られます。	下回っている
理科	正答数が6～9問に児童が集中しており、平均正答数がわずかに低くなっています。 とくに思考・判断を問う問題への誤答が多いため、しっかりと自分の考えをもって実験をする、実験結果から自分なりの考えを導き出すなど考える活動を充実させる必要があります。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

○成果  
「日明っ子のきまり」を教室に掲示したり、終礼時に生徒指導の情報を共有し、全体で指導内容を統一することで、学校のきまりを守って行動することができています。

○課題  
朝食を食べていない・睡眠時間が決まっていない・家庭での自主学習の習慣がない・家庭学習の時間が少ない・地域への関心が薄いなどの課題があります。特に地域や社会への関心が薄いようです。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

学校全体で、朝自習の時間に基礎基本定着問題集の問題に取り組み、知識・技能の定着を図る。問題の内容を的確につかみ何が問われているのかを理解できるように、友達と話し合ったりグループで考え合ったりする活動を授業に多く取り入れるようにします。

学年の実態に応じ、給食準備の時間等に補充学習を行うようにします。また、ひまわり学習塾などを活用するようにします。どの教科の授業でも、考える・書く・話し合う活動を確実に行うよう共通理解し、思考力や表現力を高めるようにします。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりやホームページに、本校の特徴や課題を記載し、家庭への周知を行うようにします。それと同時に、朝食や睡眠の大切さや自主学習の内容を保護者や児童に紹介することで、家庭と学校が協力して課題を解決できるようにします。

また、今、地域でどのようなことが行われているか、社会でどのようなことが起こっているのかを帰りの会等で児童にわかりやすく伝えたり話題にしたりするようにします。自己肯定感を高めるために、教師が児童それぞれのよさが発揮された場面で称賛したり、家庭へ連絡したりするようにします。また、家庭でも学校で頑張ったことやほめられたことを称賛し、学校と家庭で協力しながら児童の自尊感情が高まるようにします。